

事業番号 0041

(事業名) 官民研究開発投資拡大プログラム (PRISM)
(担当部局) 政策統括官 (科学技術・イノベーション担当)

－公開プロセスの評価結果－

<評価結果>

事業内容の一部改善

<取りまとめコメント>

現在アウトカムとして設定されている民間資金の量的な確保は、本事業の求心力を示す重要な要素ではあるが、本事業における国費投入の効果を測る指標としては、これだけでは不十分なのではないかと考えられる。施策選定の際に、研究の加速化・前倒し、サンプル数の増大、各省庁間のマッチングなど、国費のアドオンにより施策に何らかの改善効果がある旨が申告されているのだとすれば、アウトカムとして、個別施策ごとのアドオンによる効果の「発現」状況を指標として掲げ、フォローアップすべきではないかと考えられる。

最先端の研究開発案件であることから、短期間で国費投入の可否の判断を下すことは適切とは思われないが、年度ごとに所期の効果を検証し、未達の場合の原因分析を求めながら進めることで、3年目のステージゲート方式の評価が有効に機能するものと思われる。

なお、評価が重視される一方で、関係者の事務負担等についても配慮がなされることが求められる。

<外部有識者の評価>

- | | |
|---------------|----|
| イ 廃止 | 一名 |
| ロ 事業全体の抜本的な改善 | 一名 |
| ハ 事業内容の一部改善 | 6名 |
| ニ 現状通り | 一名 |

<外部有識者のコメント>

(アウトカム、効果検証について)

- ・国が評価するのみではなく、予算を投入して研究開発を支援することがポイントとすれば、投入される国の予算の効果を測る指標がアウトカムに掲げ

られるべきであり、毎年度は無理だとしても、3年目のステージゲート方式による評価時に検証すべき。

- ・アウトカムとしている「民間資金の受入を国費の約4分の1以上」は、民間負担が低すぎるのではないか。
- ・各省庁の予算にアドオンすることの意義として、新規分野の開拓や誘導が進んだのか、省庁間で連携・マッチングが進んだのか、費用対効果を検証すべき。
- ・事業目的である①誘導、②加速化、③前倒しに対応したアウトカムの設定が必要である。特に、加速化は、民間資金投入促進にもつながるものと考えられるため、各省庁施策の研究計画を把握し、その上でアドオンによる加速化を踏まえた計画案を提示させることが追加配分前に必要ではないか。

(研究開発の評価について)

- ・研究開発の評価について、内閣府としての司令塔機能を発揮するようにしていただきたい。特に、予算の最終的な執行機関に、研究開発法人、特定研究開発法人等が登場しているが、これらの法人には、「研究開発成果の最大化」が求められているところ、評価の交通整理が必要ではないか。
- ・各省庁の評価、研究開発法人の評価、会計・予算のチェックなどで現場研究者の負担にならないアカウントビリティ体制を考えるべき。
- ・対象事業の成果のフォローアップも必要ではないか。

(その他)

- ・基礎研究ではなく応用研究において国が費用負担することの意義を明確にすべき。
- ・アドオンされることを各省庁が見込んで、自身の事業費を減じるといったことのないよう確認すべき。
- ・内閣府→各省庁→関係機関→プロジェクトの資金の流れと進捗が見える化すべきではないか。